

高齢犬の関節疾患

変形性関節症について

コラーゲンとプロテオグリカン

コラーゲン

- 体蛋白の1/3を占める
- 15歳頃から老化が始まる(ヒト)
- 軟骨に弾力性とショックアブソーバーの働きを与える

プロテオグリカン

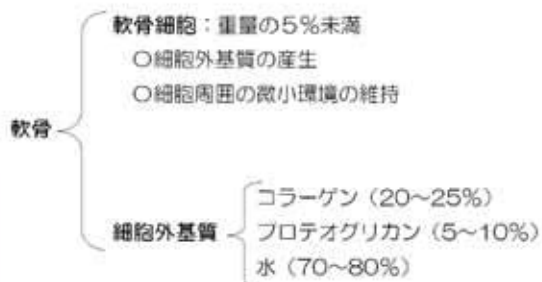
- コア蛋白にグリコサミノグリカンが結合したもの
- 軟骨に弾力を与える
- 軟骨中の水分量を調節
- 水分保持が減少すると、コラーゲンの働きも悪くなる

犬の関節疾患

- 股関節形成不全
- 膝蓋骨脱臼
- 椎間板ヘルニア
- 変形性関節症
- etc...

変形性関節症

軟骨の構造



変形性関節症？

『病理学的に関節軟骨の磨耗相と増殖相の混在によって特徴づけられる慢性、進行性、非炎症性の変形性関節疾患』

- 軟骨の形成と破壊のバランスが崩れた状態
- 発育期の異常や外傷性
- 老齢性の変化
- 症状が進行すると、コラーゲン及び軟骨細胞の崩壊と消失が起こる(不可逆的)

促進要因 1.

- 遺伝：好発犬種
- 関節異形成
- 栄養の過剰摂取
 - 急激な体重増加と成長により、支持組織発達の不均衡がおこる
 - **生後4～7ヶ月の管理がポイント**

変形性関節症：何が問題か？

- もっとも大きな問題となるのは『痛み』
 - 動物の活動性や生活の質（QOL）を悪化させる
- 痛みの程度と関節損傷の重症度は必ずしも同じではない
 - 変形があっても病気を進行させなければ、一般に症状はかなり軽減

好発犬種

- ニューファンドランド
- バーニーズ・マウンテンドッグ
- ゴールデン・レトリバー
- フラットコーテッドレトリバー
- ロットワイラー

変形性関節症になると・・・

- 慢性の跛行、段差を昇れないetc…
 - 軽度の場合は間欠的
 - 特に起立直後や運動初期に顕著
- 食事や排泄など、生理現象にかかわる動きがスムーズにできない
 - 動きたがらない
 - 排泄に行きたがらない・回数が減った
 - 表情が変わった（アイコンタクトの有無など）

促進要因 2.

- 肥満
 - 遺伝的素因があっても、体重管理で予防可能
- 運動不足
- 過度の運動
- フローリングの床

ポイント

- 変形性関節症は生涯疾患
- 見た目の症状は消失しても、組織学的な病態は徐々に徐々に進行する
- 進行をとめる、あるいは速度を緩めることが治療の目的
- **促進要因を除外することも重要**

変形性関節症の治療

- 体重管理
- 適切な運動
- 薬物の投与
- 軟骨保護が期待される物質の投与
- 外科的な治療
 - 関節機能の修復が不可能で、痛みが除去が困難な場合

家庭での管理

- 運動のコントロール
 - 痛みを管理しながら、ゆるやかな運動を課す
 - プール、ウォーター・トレッドミルなどを用いた運動
 - 毎日の制限運動（規則的制限運動）
 - 徐々に、ゆったりとしたペースで
 - 体調を整えていく
 - 毎日行うことが大切

動物病院と相談しながら、無理をせずに・・・

軟骨保護作用が期待される物質

- ヒアルロン酸、グルコサミン、コンドロイチン、etc...
- グルコサミンやコンドロイチン
 - 臨床症状を改善
 - グルコサミン
 - ヒアルロン酸やコンドロイチンを構成する物質
 - 減少が関節の変形や痛みをおこすとも
 - 考える副作用があまりない！

なんと言っても・・・



早い段階で気付くことが大切

- 日頃から行動をよく観察しましょう
- 『年をとったから・・・』で済ませない
- 何か気になる事があったら動物病院へ

家庭での管理

- 体重の減量
 - 生涯にわたってその体重は適正あるいはそれ以下に維持
 - 関節にかかる荷重を最小限に
 - フードもおやつも与えすぎは禁物！
- 生活環境の改善
 - フローリング
 - 高い場所からの飛び降り

変形関節症のサイン

- 不自由な足取り
- 歩き始めにこわばる
- 散歩に行きたがらない、途中で座り込む
- 走るのを嫌がる
- 階段の昇り降りを嫌がる
- 寝てばかり
- 頭を下向き加減にして歩く
- 歩くときに腰が左右にゆれる
- 横座りする
- etc...

